

# 2020年3月期 連結業績見通し

代表取締役社長  
石黒 成直

石黒でございます。私から2020年3月期通期業績見通しについてご説明します。

## 2020年3月期 通期見通しのポイント

- 中長期的には、デジタルトランスフォーメーション、エネルギートランスフォーメーション潮流の加速により、エレクトロニクスビジネスが拡大する環境下において、事業機会獲得を狙う
- 短期的には、米中貿易摩擦、中国経済減速、Brexit等によるマクロ経済への影響が継続する前提に立ち、2020年3月期は中長期的成長のための施策を実行し、中期経営目標の達成に注力する
  - 受動部品、エナジー応用製品は前期から大きな成長を見込まず、磁気応用製品はHDD市場の需要回復が下半期以降になると想定し、確実に収益目標を達成する。
  - センサ、磁石等課題事業の確実な収益改善施策を実行し、全社収益改善を図る。
  - MLCC、非スマートフォン向け二次電池の競争力強化のため、継続的設備投資を実行する。

まず2020年3月期の通期業績見通しの前提として、事業環境をどのように見ているのか、またその環境を踏まえそれぞれの事業業績をどのように見通しているのかについてご説明したいと思います。

当社が事業を営む市場を中長期的に見通すと、デジタルトランスフォーメーション、すなわちIoTやAIなどデジタルテクノロジーによる変革や、自動車のxEV化や電力などエネルギー分野におけるトランスフォーメーションの潮流がますます加速し、エレクトロニクスビジネスが確実に拡大し、当社が提供する電子部品の需要も大きく伸びていくと思われまます。そのような事業環境の中でTime to Marketを意識し、事業機会の獲得を狙っていきたくと考えています。

一方短期的には、米中貿易摩擦に端を発した中国経済の減速や、Brexitなど欧州政情不安によるマクロ経済への影響がしばらくは継続すると考えられます。そのような市場環境の中で、当社は2020年3月期を中長期的な成長の仕掛けを講じる年と位置付け、中期経営目標達成に向けた施策を確実に実行していきたくと考えています。このような前提に基づく2020年3月期の業績見通しにおいて、好調が続いているセラミックコンデンサをはじめとする受動部品や、二次電池を中心とするエナジー応用製品については、2019年3月期から大きな売上成長を見込まず、また磁気応用製品のHDDヘッド・HDDサスペンションは、データセンター向けHDD市場の需要回復が2020年3月期下半期以降になる前提とし、確実に収益目標を達成していきたくと考えています。

一方2019年3月期に収益改善が遅れたセンサ事業およびマグネット事業については、すでに手掛けている成長戦略に基づく施策を実行し、確実に赤字改善を図り、全社収益向上につなげたくと考えています。

全体的には大きな売上成長を見込んでいない中でも、特徴ある製品で自動車市場における需要をしっかりとつかんでいるセラミックコンデンサ、そしてスマートフォン向け二次電池における高い競争力をテコに非スマートフォン向け市場も開拓し、さらなる成長を図る二次電池に対しては、一層の競争力強化のため、継続的に成長投資を実行していく予定です。

# 2020年3月期 連結業績及び配当金見通し

(億円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 業績予想 (2019年4月発表)	業績予想対前期比	
			増減	増減率(%)
売上高	13,818	14,200	382	2.8
営業利益	1,078	1,200	122	11.3
営業利益率	7.8%	8.5%	+0.7 pt	-
税引前利益	1,156	1,180	24	2.1
当期純利益	822	840	18	2.2
1株当たり利益(円)	651.02	665.14	-	-
配当金	上期：80円 下期：80円 年間：160円	上期：90円 下期：90円 年間：180円	-	-
為替 対ドルレート	110.94	108.00	-	-
為替 対ユーロレート	128.48	122.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)	1,736	2,000	264	15.2
減価償却費	1,066	1,300	234	22.0
研究開発費	1,152	1,200	48	4.2

この考え方にに基づき、連結業績予想についてご説明します。

まず業績見通しの前提となる為替レートは、対ドル108円、対ユーロ122円としています。

売上高は1兆4,200億円、7期連続売上新記録を目指し、営業利益は1,200億円、新記録更新を目指します。税引前利益1,180億円、当期純利益840億円、1株当たり利益666円を計画しています。配当金は、上期・下期ともに90円、年間180円とし、20円の増配を予定しています。

設備投資は2,000億円、減価償却費は1,300億円、研究開発費は1,200億円を見込んでいます。

# 2020年3月期 通期連結売上高増減イメージ

(億円)

セグメント 区分	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期予想 (対前年比)
受動部品	4,334	+2~+5%
センサ応用製品	765	+28~+31%
磁気応用製品	2,728	△17~△20%
エネルギー応用製品	5,375	+6~+9%
その他	616	—
<b>合計</b>	<b>13,818</b>	<b>14,200</b>

為替レート \$/Yen

110.94

為替レート EURO/Yen

128.48

為替前提

108.00

122.00

通期業績見通しの前提としている連結売上のセグメント別増減イメージについてご説明します。

まず受動部品セグメントは+2%~+5%の増加を想定しています。自動車市場において、世界自動車販売台数は前期比ほぼ横ばいと見ているものの、xEV化やADAS、自動運転等の進展に伴い需要がますます拡大することを見込み、コンデンサが売上成長を牽引していくと想定しています。ICT市場、産業機器市場向けの売上成長はほとんど見込んでいません。

センサ応用製品セグメントは+28%~+31%の増加と見えています。MEMSセンサおよびTMRセンサのスマートフォン向け売上拡大に加え、磁気センサおよび温度・圧力センサが自動車市場向けに売上を拡大することを見込んでいます。

磁気応用製品セグメントは、▲17%~▲20%の減少と見えています。HDDヘッドの数量は、ニアライン用ヘッドの構成比率が上がるものの全体では減少、さらにHDD組立売上が大きく減少する一方、HDDサスペンションの売上は横ばいと見えています。マグネットは自動車市場向けに販売が増加してくる反面、HDD用マグネットの販売減少および産業機器市場向け需要回復の遅れにより、全体では減収の見込みです。

エネルギー応用製品セグメントは+6%~+9%の増収と見えています。スマートフォン向け売上は大手得意先向け売上が増加する以外は大きな増加を見込んでいませんが、ミニセルなど非スマートフォン向け売上の増加を見込んでいます。産業機器用電源の売上は若干減少する見込みです。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。  
[https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir\\_events/conference/2019/4q\\_1.htm](https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2019/4q_1.htm)